

令和 3 年度 施策評価表

第 2 章 『子どもが大切にされるまち』

まちづくりの目標	子どもたちが、地域の「絆」の中でしっかりと学び、健やかに育っていけるよう、家庭、地域、学校などがそれぞれの役割を果たし、一体となって子どもが大切にされるまちをめざします。
分野別計画・指針	第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画(ところっこすくすくサポートプラン)、第4次所沢市障害者支援計画(障害児福祉計画)、所沢市放課後こども健全育成基本方針、第2次所沢市教育振興基本計画、第3次所沢市子どもの読書活動推進計画、所沢市いじめ防止基本方針

第1節	子ども支援
関係所属	こども支援課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和2年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,537人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「子ども支援」 所沢市は子育て世帯への支援や相談窓口が充実している	525	20.7%	465	18.3%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
	こども支援センター(子育て支援)の利用者満足度	%	98.35	100	99.43	×	100

事業目標の達成状況								
基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値	
2-1-1	子どもの育成支援の充実	こども支援センター(子育て支援)の利用者数	人	85,856	60,000	35,813	×	60,000
2-1-2	子育て家庭への支援の充実	ところっこ子育てサポート事業相談件数(基本型・特定型)	件	872	900	1,033	○	900
2-1-3	地域における子育て支援の充実	ファミリーサポート事業の年間利用件数	件	12,155	17,000	9,579	×	17,000

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 ○こども支援センターの「子育て支援エリア」では、併設している「発達支援エリア」をはじめとする関係機関と連携し、利用者が専門職に気軽に相談できる行事や講座開催を実施し支援した。
 ○ところっこ子育てサポートでは、子育て相談や情報提供などのニーズに応じた支援を行った。
 ○ファミリーサポート事業では、地域における子育て支援の仕組みとして活用されている。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 ○こども支援センターの利用者満足度については不満・やや不満と回答した方はいなかったが、どちらでもないと回答した方がいたため目標未達成になったと考えられる。
 ○こども支援センターの利用者数は、コロナ禍における一時閉鎖や事業内容の縮小及び利用者の自粛による影響と考えられる。
 ○ファミリーサポート事業については、コロナ禍における利用自粛要請や臨時休止期間があったこと、また利用者の自粛による影響と考えられる。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 ○ところっこ子育てサポート事業については、子育て世代包括支援センターかると連携し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の充実を図る。
 ○ファミリーサポートセンターの利用ニーズが高まっていることから、継続して実施するとともに、援助会員数の確保を図るため、様々な機会を捉えて周知を行っていく。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 ○こども支援センターの利用者満足度については、高い評価をいただいたところであるが、更なる満足度の向上を目指し、支援の充実を図る。
 ○ファミリーサポート事業については、事業のより一層の周知を図り、預かりを必要とする人が利用しやすい制度となるよう継続して実施していく。

SDGsへの貢献

レ	1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R3.7.29	記入者職氏名	こども未来部次長 内野 孝雄

第2節	子ども福祉
関係所属	こども福祉課、こども支援課

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和2年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,537人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「子ども福祉」 所沢市は子どもの発達や虐待防止の相談・支援体制が整備されている	371	14.6%	344	13.6%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
	こども支援センター(発達支援)の利用者満足度	%	93	100	93.5	×	100

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-2-1	障害児支援の充実	こども支援センター(発達支援)の利用者数	人	19,517	21,900	20,429	×	22,300
2-2-2	養育環境に配慮した支援の充実	児童家庭相談の件数	件	844	900	749	×	900

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 ○こども支援センター(発達支援)では、心理士・言語聴覚士・作業療法士の専門職による相談支援、地域支援、障害児通所支援を柱とした取り組みを行った。相談支援では併設する子育て支援エリアや保健センターなどの関係機関と連携し、延べ4,325件の相談を行った。地域支援では保育所・幼稚園への巡回相談、支援者や当事者の家族向けのオンライン研修会等を行った。障害児通所支援では児童福祉法に基く児童発達支援・保育所等訪問支援を行うとともに、保護者の同意のもと就学先へ支援記録の提供を行った。
 ○児童家庭相談においては、子どもや家庭に関する様々な相談に対応し、状況に応じて継続的な支援を行った。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 ○評価指標「こども支援センター(発達支援)の利用者満足度」については、「子にも親にも寄り添ってくれる」専門家の観点からわかりやすく伝えてくれる」といった評価を多くいただき前年度の満足度89.8%を上回ったものの、相談支援の利用者の増加により、相談間隔等の希望に添えない状況もあり目標未達成となったものである。
 ○事業目標「こども支援センターの利用者数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため予定していた事業の中止や、利用者自身が来館を控えたこと等により目標値を下回ったものである。
 ○児童家庭相談においては、コロナ禍での緊急事態宣言発出による外出機会が減ったこと、こども支援センターでの相談事業が定着してきたことが考えられる。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 ○こども支援センター(発達支援)の機能がより発揮されるよう、事業内容の改善を図っていく。
 ○障害児支援の充実については、不足している医療的ケア児や重症心身障害児を受け入れる児童発達支援施設を整備する。
 ○教育と福祉の連携を進める等、障害児支援の担い手の相互理解を深めていく。
 ○児童家庭相談については、引き続き、電話や窓口、メールで子どもに関する様々な相談に対応し、支援の充実を図っていく。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 ○評価指標「こども支援センター(発達支援)の利用者満足度」については、引き続き職員研修などにより支援の質を向上させるとともに、より円滑に相談支援に繋げることができるよう関係機関と協議していく。
 ○事業目標「こども支援センターの利用者数」については、施設での新型コロナウイルス感染症対策を引き続き行い、必要に応じWebを活用するなど、必要な支援を届けられるよう事業を実施していく。
 ○児童家庭相談においては、様々な機会を通じて周知を行い、相談しやすい環境作りに努める。

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	レ 10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R3.7.29	記入者職氏名	こども未来部次長 内野 孝雄
-----	---------	--------	----------------

第3節	子育て環境							
関係所属	こども政策課、保育幼稚園課、青少年課							
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和2年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,537人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「子育て環境」 幼稚園・保育園などや放課後児童クラブが充実している			616	24.3%	485	19.1%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
	就学前児童の保育待機児童数		人	26	5	2	○	0
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-3-1	幼児教育の支援	幼稚園型一時預かり事業の利用者数	人	104,651	105,000	114,299	○	105,000
2-3-2	就学前児童の保育の充実	就学前児童の保育施設の利用者数	人	5,572	5,900	5,918	○	6,000
2-3-3	放課後児童クラブの充実	放課後児童クラブの利用者数	人	2,250	2,458	2,459	○	2,458
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○保育所・幼稚園の統合による認定こども園移行に伴う定員拡大、既存の地域型保育事業の定員拡大により保育の受入枠を増加させた。</p> <p>○保育を必要とする児童を幼稚園で預かってもらうため、幼稚園型一時預かり事業を実施した。この中で、長期休業日の預かり実施に伴う事業者の負担軽減を拡充した。</p> <p>○民設民営児童クラブを2施設を新設したことや、富岡児童クラブと椿峰児童クラブにおいて学校施設を活用した定員拡大を図り、合計160人分の新たな定員の確保を図った。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p>								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育定員の確保を図る。</p> <p>○幼稚園型一時預かり事業に移行していない事業者に対し意向確認を行い、希望する事業者の移行を促す。（実績値には私学助成による預かり保育実施件数を含む。）</p> <p>○放課後児童クラブの狭隘化や大規模化の解消に向け、施設整備や学校施設の活用により定員の拡大を図るとともに、放課後児童支援員の確保や研修の充実、モニタリングを通じて、放課後児童クラブで提供するサービスの向上を図る。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p>								
SDGsへの貢献								
レ	1 貧困をなくそう			10 人や国の不平等をなくそう				
	2 飢餓をゼロに			11 住み続けられるまちづくりを				
レ	3 すべての人に健康と福祉を			12 つくる責任 つかう責任				
レ	4 質の高い教育をみんなに			13 気候変動に具体的な対策を				
	5 ジェンダー平等を実現しよう			14 海の豊かさを守ろう				
	6 安全な水とトイレを世界中に			15 陸の豊かさを守ろう				
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ		16 平和と公平をすべての人に				
	8 働きがいも経済成長も			17 パートナリシップで目標を達成しよう				
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう							
評価日	R3.7.29	記入者職氏名	こども未来部次長 内野 孝雄					

第4節	青少年健全育成								
関係所属	青少年課、社会教育課								
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和2年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,537人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「青少年健全育成」 所沢市は青少年が健全に育つ環境が整備されている			413	16.3%	194	7.6%			
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	青少年健全育成に関する施策の満足度		%	28.0	29.0	16.3	×	31.0	
事業目標の達成状況									
基本方針		事業目標		単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-4-1	家庭・地域・学校みんなで青少年の健全育成	「三つ葉の提言」の配布数		件	3,353	3,400	1,767	×	3,500
2-4-2	青少年健全育成の支援	児童館利用者数		千人	364.9	現状値以上	160	×	現状値以上
2-4-3	青少年の教育及び体験活動の充実	所沢こどもルネサンス事業参加率		%	27	28	11	×	30
節の基本方針への取り組み状況									
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○「三つ葉の提言」の啓発活動として予定していたキャンペーンが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できず、関係機関や団体を通じた普及活動となったため、配布枚数も減少し、対象者も限定的になってしまった。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、児童館の一般来館では利用時間や人数の制限を行ったり、イベントの中止や規模の縮小などを行ったりしたため、利用者数が減少してしまった。</p> <p>○青少年の様々な体験活動の充実に努めるとともに、活動団体を支援した。しかしながら、コロナ禍により大幅な予定変更を余儀なくされた。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた啓発活動ができず、「三つ葉の提言」の配布数が減少してしまった。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、通常の児童館運営ができず、利用者数が減少してしまった。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止となった事業が多く、例年よりも事業数が減じたため、目標値が未達成となった。</p>									
今後の方向性									
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○「三つ葉の提言」の普及に向けた啓発活動を実施する。</p> <p>○コロナ禍にあっても、感染防止対策を徹底することで、青少年に対する事業を可能な限り開催し、青少年の健全育成の場を確保していく。</p> <p>○学校以外の場で、青少年が様々な体験活動に参加し、成長できるよう、今後も体験活動の充実と活動団体の継続的な支援に努める。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○「三つ葉の提言」の普及には、街頭でのキャンペーンによる啓発活動だけでなく、普及方法の充実を図っていく。</p> <p>○今後の児童館運営に関して、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、安心・安全に児童館を利用できるようにしていく。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら、引き続き青少年の成長につながる体験活動の場が設けられるよう、事業実施の手法を模索していく。</p>									
SDGsへの貢献									
1	貧困をなくそう	レ	10	人や国の不平等をなくそう					
2	飢餓をゼロに	レ	11	住み続けられるまちづくりを					
レ	3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任					
レ	4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を					
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう						
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう						
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16	平和と公平をすべての人に					
8	働きがいも経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう						
9	産業と技術革新の基盤を作ろう								
評価日	R3.7.29	記入者職氏名	こども未来部次長 内野 孝雄 教育総務部社会教育担当参事 吉田 謙治						

第5節	学校教育
-----	------

関係所属	学校教育課、保健給食課、スポーツ振興課、教育施設課、教育センター、経営企画課
------	--

施策に対する市民満足度・要望度 〔令和2年度所沢市市民意識調査〕の結果※回答数:2,537人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「学校教育」 所沢市の小中学校は学びの環境が整備されている	665	26.2%	423	16.7%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
	埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び	レベル	2	2	2	○	2

事業目標の達成状況

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-5-1	確かな学力と自立する力の育成	学力向上推進事業における研究委託校数	校	20	現状維持	1	×	現状維持
2-5-2	豊かな心の育成	いじめ解消率の小・中の割合	%	51.2	61	68	○	65
2-5-3	地域が信頼する学校づくりの推進	特色ある学校づくり支援事業で活用した地域人材の人数	人	5,603	6,110	5,064	×	6,110
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食センターの再整備	—	調査	検討	実施方針	○	運営
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食における残食率	%	6.3	7	5.5	○	7
2-5-4	健やかな体の育成	体力テストにおける上位ランクの生徒の割合(中学校)	%	87.9	88.4	中止	×	89.2
2-5-5	学校環境整備の推進	学校トイレの洋式化率	%	35	44	48	○	56
2-5-6	学習環境の整備	市内小中学校における電子黒板の導入割合	%	17	29	24	×	50
2-5-7	教育環境の充実	特色ある私立学校の誘致	—	推進	推進	推進	○	推進

節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 - 命にかかる重大事案の発生を重く受け止め、継続して教職員の研修および子どもの自己肯定感の醸成に最重点を置いて取り組んだ。いじめの防止についても、所沢市いじめ防止基本方針及びいじめ対応マニュアルに則り、早期発見、早期対応、早期解消に努めた。
 - 長期に亘る臨時休業を経て、市立小・中学校、幼稚園の各校において、新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、制限がある中でも効果的な学習方法を工夫し、規定の教育内容を履修した。
 - 「埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び」について、実績値の根拠となる埼玉県学力・学習状況調査が、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったため、前年度と比較できる実績を得られなかった。
 - 電子黒板の導入割合について、文部科学省の「GIGAスクール構想」に基づき、令和2年度中に、児童生徒1人1台の学習者用コンピュータを整備したところであるが、これにより全ての普通教室及び一部の特別教室に大型提示装置が早急に必要となったことから、計画を変更し、電子黒板ではなく液晶ディスプレイをすべての普通教室及び一部の特別教室に整備を行った。
 - 私立学校の誘致に必要な手続き等について、県をはじめとする関係各所と調整を進めた。
 - 新型コロナウイルス感染症の影響で体力テストを中止した。
 - 平成26年度から進めてきた校舎1系統目のトイレ改修事業により、令和2年度の目標とした洋式化率を達成することができた。
 - 山口中学校の既存擁壁について、災害防止の観点から安全性を高めるための改修及び補修工事を実施し、学校環境の整備を行った。
 - 老朽化した校舎等について、修繕及び改修工事を実施し、学校環境の整備を行った。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 - 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、具体的な地域との連携活動を自粛せざるを得ない状況があった。学校研究委託も同理由により令和3年度に移行するなどの措置をとったため未達成であるが、学力向上推進事業としては新たに「学び創造アクティブPLUS」をスタートさせ、各学校が取組を進めている。
 - 電子黒板の代わりに液晶ディスプレイを全ての普通教室及び一部の特別教室に整備したため、評価指標としては未達成であるが、大型提示装置の設置率は100%である。
 - 新型コロナウイルス感染症の影響で小学校、中学校ともに体力テストを中止したため、指標がなく達成状況は把握できない。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 引き続き、子どもたちの豊かな心の育成・自己肯定感の醸成に最重点を置いて、子ども理解・心の育成に係る教職員研修の充実を図る。未だ新型コロナウイルス感染症対策の制限はあるものの、今年度から本格的に展開する学力向上推進事業「学び創造アクティブPLUS」においても、取り組みの柱に据え、全ての教育活動を通して子どもの自己肯定感の醸成に努めていく。
- 学力向上推進事業「学び創造アクティブPLUS」では、心のエネルギープロジェクト、所沢市GIGAスクール構想、特色ある学校づくり等の事業とも関連づけ、創意工夫して、引き続き学校・家庭・地域が一体となって、一層主体的・対話的で深い学びを創造していく。
- 「埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び」について、継続して学力レベルを2ずつ伸ばすよう学校を支援する。
- 今後は、整備されている液晶ディスプレイの、効果的な活用を推進する。
- 私立学校の開設に必要な手続き等について、県をはじめとする関係各所と調整を進める。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、運動する機会が減り、児童生徒の体力が低下している。児童生徒体力向上委員会と連携し、児童生徒一人一人の課題に応じた取り組みにより、総合的な体力向上を目指す。
- 令和3年度のトイレ改修工事をもって校舎1系統目のトイレ改修が完了となるが、児童生徒へのアンケート調査において、新しくなったトイレの満足度が高いこと、また改修により学校環境の改善が図られることから、令和4年度から校舎2系統目のトイレ改修に着手する。
- また、屋内運動場のトイレについても児童生徒のための環境整備に加え、災害時の避難所としての役割や市民への開放など、利用者の多様化に伴い、令和4年度からトイレ改修に着手する。
- 昨年に引き続き、山口中学校の既存擁壁について、災害防止の観点から安全性を高めるための改修及び補修工事を行い、事業を完了させる。
- 学校給食センターの再整備事業については、入札公告し、事業契約の締結を行う。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 引き続き、いじめ、不登校などの課題に対応するために、教員に加え、心理士、学校に配置している心のふれあい相談員、スクールカウンセラーや学校教育相談員による相談活動を充実させていく。また、「いじめ問題対策委員会」を活用し、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応を進め、児童生徒の健やかな成長を支える。
- (アフターコロナを見据えた先進的な視点を示すとともに)本年度は研究委託を再開し、各学校の家庭・地域と一体となって取り組む活動を支援していく。
- すでに大型提示装置の設置率としては100%である。
- 体育授業を基盤として「みんなで伸ばそう、所沢市の子どもの体力を」を合言葉に、体力向上と合わせて、運動好きな児童生徒の育成を積極的に展開していく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
レ 6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も		17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R3.7.29	記入者職氏名	経営企画部次長 井上 典 教育総務部次長 市川 雅美 学校教育部次長 関根 祐一 学校教育部保健給食担当参事 肥沼 位昌 学校教育部教育センター担当参事 中村 啓
-----	---------	--------	---